

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600117	事業の開始年月日	平成20年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	有限会社 しおさい			
事業所名	グループホームあゆの里相模			
所在地	(229-0016) 神奈川県相模原市当麻765番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年3月4日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	神奈川県指定情報公開センター
----------	----------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人の代表が医師、副代表が認知症介護指導者であり、グループホームの共通指針として「医療と介護の融合」をコンセプトに終身型（看取り）を実践を目指し、設備面でも転倒骨折低減の為にクッションフロア、災害面についても消防署直結型報知器など安全面を重視し、居室・リビングなども基準よりも余裕を持った設備になっています。日常生活リハの場面でもアイランド型キッチンを採用するなど職員と入居者が一緒に生活できる感覚を得られる様に配慮しています。今年度より自治会賛助会員に登録となり地域行事・公民館行事に積極的に参加、受入協力する様に努力しています。昨年度は身体拘束廃止推進モデル施設として指定を受け、来年度は地域密着型研修の実習施設指定の予定です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価機関 評価決定日	平成22年4月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇法人代表(医師)、副代表(認知症介護指導者)の指導のもとで「医療と介護の融合」を法人共通の基本方針にし、当事業所は終身型(看取り)介護を目指し24時間医療連携体制を敷いている。
 ◇消防署直通の報知機・電話、クッションフロア、オープンキッチンなど安全面、生活面での配慮をしている。
 ◇地域との協力関係を重視しボランティア体験受け入れなどを積極的に行い、地域関係者の理解が深い。
 ◇昨年度は身体拘束廃止推進モデル施設として指定を受け、また、来年度は地域密着型研修の実習施設指定を目指している。
 ◇社外研修への参加(毎月)・社内研修の実施(年間17回)を通して、職員の資質向上を推進している。

【事業所の工夫点】
 ◇玄関(夜間のみ施錠)、フロア、居室は全て開錠しており、リビングルームの死角を防止するためのミラー設置、玄関とフロア出入り口に風鈴治具を付けて出入りを知るなど、見守りを重視した支援を実施している。
 ◇「できることシート」(毎月チェック)「まるごととらえる5ステップ」(毎月のカンファレンスで討議)「モニタリング」(半年期間)、医師・看護師の意見をもとにして全職員が出席して介護計画を作成している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

あゆの里相模

事業所名	グループホームあゆの里相模
ユニット名	川

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援及び社会性の維持を基本理念とし、職員専用共有スペースに掲げてあり利用者主体のサービス体系を提唱する事を実践し日々の生活の中で疑問を感じれば振り返りをする様に心がけている。	「利用者中心のケア、危機管理と説明責任、利用者とのコミュニケーション、地域とのネットワーク構築、チームケアと職員教育」を理念として玄関に掲示し、日々の実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度より自治会賛助会員となり、職員・利用者共に地域行事・公民館行事に参加している。又成人学級のボランティア体験の受入など散策を含めた近隣交流につとめている。	自治会に入り、地域行事（公民館祭り、女性セミナーの講師、夏祭りなど）に参加し、婦人会のボランティア体験受け入れや散策などを通じて、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地区女性セミナーの認知症サポーター養成講座に参加協力するなど、実際の事例をもとに話をする機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告・予定等を議題とし家族会役員からの参加時の意見、今後の行事協力についての意見が述べられている。今後の事業計画に反映できる様にしていく。	本年度は4回実施した。民生委員、地域の医療関係者、地域包括支援センター職員、家族、事業所関係者をメンバーとし、事業報告、および、地域交流を推進するための意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括とは、地域行事に積極的に協力しており、依頼も多い。行政機関とは、地域密着型研修の受入施設であり副代表は講師でもあるので情報交換に努めている。	相模原市の介護保険課職員と連携を密にしている。昨年度は身体拘束廃止推進モデル施設として市の指定を受け、また、来年度は地域密着型研修の実習施設指定を目指している。	

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進モデル施設として登録しており、次年度より実習受入としている。又玄関施錠に関しては基本的に夜間防犯のみとしている。	玄関、フロア、居室は開錠している。玄関、フロアのドアに検知具を吊り下げ、フロアの死角をなくすためにミラーを設置し、見守りを主体にしている。職員は身体拘束をしないケアを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令については、メジャーであり概略については周知している。日常生活の中で声がけ等の内容が抵触するかのチェックを重点的に考察する必要がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用している方もおり、後見人も毎月面会にきておりお話を聴く機会もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時に、入所について特に問題が見当たらない場合については、意図を説明して事前に熟読する時間に配慮して契約に望み、当日には読み上げ説明確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エントランスにご意見箱を設置している。又気軽に話しが出来る様に、面会時に何気なく話しをするなど配慮している。又外部的には運営推進会議にも意見が述べられる事もある。	家族会(年2回)、運営推進会議、日常の訪問時に意見・要望を聞き、スタッフ会議で検討している。行事への家族の参加方法など前向きな内容が多い。ご意見箱は玄関にあるが利用例はない。	

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案・疑問・要望についてはユニット会議にて意見を述べる機会があり、個別の相談については随時受け付けている。事業計画等に関与する場合は幹部会議にて提案し法人決裁をもらう。	職員は、ユニット会議、日常のユニット長との会話を通じて意見・要望を出している。具体例：休暇希望日、勤務時間帯変更、夏冬の散歩時間帯変更などの提案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	担当役員が定期的に施設を巡回し職員の勤務状況・仕事への取り組みを見定めている。昇格についても、資格昇給制度があり役員よりユニット長へ事業計画・経営状態を開示するなど明確である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員研修については、副代表が認知症介護指導者なので研修を行い、その他基幹業務に関してはOJTとして数日間は主任級職員が行う。法人外研修に関しては、GH協議会研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者・管理者・介護職員も地域在宅サービスの職歴を持ち他事業所との交流がある。来年度から地域密着型研修の実習受入施設を予定しておりネットワーク的な事に関しては検討していく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室で独りにならない様に配慮しながら積極的に声をかけ表情の観察に努め調査票の内容を何気なく確認をしている。日常生活の説明をして席を調整し先に入所した方との相性を観察し調整している。		

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後のご本人の変化・あった事を積極的に話し、意見・希望を出来るだけ話し易い様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面接時に入居に至る経緯を聞き取り、判断材料としグループホームとしての可能な支援を説明すると共に医療的な部分でのフォロー限界を留意してもらった上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で同じ目線で出来る共同作業（食器の片付け、洗濯たたみ、清掃）など積極的に参加してもらい利用者間で出来ない事は出来る人に手伝ってもらう関係を作る様に心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との調整がある時に、お話し出来る方にはチョット電話を代わる様に心がけて、面会・外出については積極的に勧めている。入居中の対話の中で希望があった時は伝える様に心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等については特に制限は無く自由に行っている。普段の会話の中でも友人・昔話を大切にして可・不可はともかく外出の希望を話せる様に配慮していく。	友人の訪問は原則として制限していない。地域の夏祭り見学など、利用者が馴染んできた地域との関係維持を支援している。お墓参り、歯科医通院、美容院利用は家族が対応している。	

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の相性に配慮し、散策の時に安全を確保する上でも利用者同士で手を繋ぐ様にしている。生活リハに関わる共同作業も出来る事を中心に職員と共に一緒に行える様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、双方で確認必要な事項については相談業務を行い、他の機関との情報交換については文章・口頭にて行っている。又電話等で相談については逐次受けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一対一になる時間（入浴時・散策時・夜勤時）などに何気なく話したり、嫌な事を掴み配慮できる様にしている。又本人希望で可能範囲の事は出来るだけ早く対処していく様にしている。	日常生活（会話、表情、仕草、声の調子など）や、職員と一対一のとき（夜勤時、入浴時など）を通じて本人の気持ちを把握し、可能な範囲で対応している。（本人の嗜好、人間関係など。）	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学・面接時に差し障りの無い程度の情報確認をさせて頂き、入所後に本人との対話の中で得られた生活情報・経緯を面会帰り時に確認しケアプランの参考としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックはもとより、食事量、排泄、睡眠・体重の記録に努め、生活リハに変化を与え、歩行状態に変化の出易い散策時の変化に注意している。		

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議、ミーティング時の意見を反映し医師・看護師に確認後担当者が作成し家族確認時に希望・意見を取り込み完成としその他変動に対してはミーティング後に実施確認を行っている。	医師・看護師意見、家族の意見、「できることシート」「まるごととらえる5ステップ」「モニタリング」をもとにして、全職員が出席して介護計画を作成し、年2回見直している。介護計画は家族の承認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関わる項目に関しては個別記録上色分けしており、情報交換に関しては連絡帳・毎朝のミーティング、スタッフ会議で行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的に発生するニーズに対しては、代表と共に相談の上でフレックスに対応している。外出・買い物・不穏時については個別対応とし、通院については可能な範囲で家族に依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により、地域包括支援センター・民生委員との情報交換に努め地域情報の把握に努め警察関係については挨拶をしている。近隣については、施設についての理解を散策時の交流を通して行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診時に、かかりつけ医からの病状説明は可能であり、医師からの相談があれば調整している。又変化の無い利用者についても代表がかかりつけ医であるので家族会で対応している。	利用者のかかりつけ医受診は可能である。事業所の協力医療機関は湘寿クリニック（法人代表が医師、隔週往診）、岩本歯科（毎週往診）などである。	

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も、訪問時に往診記録を確認後に看護を始めており不明な点は管理者に聞き医師からの処置内容についても電話にて確認できている。職員も日々の疑問については口頭にて逐次相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表がかかりつけ医であるのでグループホームの許容範囲は熟知し医療機関・家族等の調整は積極的に行っており結果を管理者が受け取り現場調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについての意向確認については、代表が医師であるので時期については一任している。その時医師・管理者・家族・ユニット長にて話し合いを行う様にしている。	「重度化における対応(看取り)指針と同意書」を契約時に家族に説明し、24時間医療連携の態勢を敷いている。重度化した場合は家族、医師と綿密に連携をとり家族の希望に沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初動対応については、電話横にチャート図があり随時目に入っている。救急法的には定期訓練はしていないが、個別処遇的に医師から説明を受ける機会はある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練・夜間通報訓練を行っている。又若干の飲料水のみ備蓄している。地域協力については、散策時及び地域行事への利用者参加、公民館への協力により施設の周知に努めている。	平成21年6月、10月に利用者が参加して避難訓練を行った。消防署直通の報知機・電話を設置し、また、事務所内、および、フロアの職員用電話の近くに緊急連絡網を掲示している。	地震その他の緊急時の対応として、飲料水、食糧、防寒具を備蓄することを期待します。

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室・お部屋に入る時は、声かけをして、入浴・トイレ誘導は耳元で小声で行い。生活歴の話は職員側からは行わず、(医療について)も居室にて対応する様にしている。汚れた衣類も配慮している。	個人情報保護に関する誓約書を職員に提出してもらい、入社時に研修している。職員が利用者の居室に入るときは、必ず利用者に声かけをしてから入室するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴も声かけをして本人の希望するタイミングで入り、食事メニュー・服装・散策先・飲み物も選択できるようにし、「どうするー」的な声かけを中心に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・着替・朝食の時間は、ある程度7-としていた。居室で過ごす時間も大切にし入浴の順番も無く、就寝後も個々にテレビを見たりと過ごしている。健康上支障が無い限り説得はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に自分でセットが可能な方にはしてもらい、服装に関しては季節に応じた物を選び助言程度にしている。自分で出来る環境に注意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのランチョンマットを作り使用している。準備に関しては、食材の前処理に参加して頂き、出来る方に盛り付けてもらい小鉢を多用し、下膳や食器拭きに関しても可能な方は全員で行っている。	献立は職員が作成しており、作成時に利用者の希望を聞くことがある。食材の買物には近くのスーパーに利用者と共に出かけている。対面型キッチンのため、利用者が気軽に手伝ができる。	

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量については毎食チェックをしており、水分については必要に応じて個別に行っている。体重管理は毎月として食材が偏らない様に管理している。嗜好についても可能範囲で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいは出来ない部分は援助し、毎週往診の訪問歯科による定期健診等を実施しおり専門医との情報交換に努めている。入歯は夜間ポリドントを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者全員の排泄時間チェックを行っており、時間が空いている方には声がけをしている。下剤も個々に合った物を使用して便器も個人に合ったものを使用している方もいる。	職員は排泄表で個人別に排泄パターンを把握しており、利用者に時間でトイレに誘導している。声掛けの際、利用者の尊厳を失わないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を多目に提供し、食事も繊維質・水分を摂れる様に意識している。体操、散策も良い結果になっていおり、ご自分から階段歩行している方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴は行っており、時間も希望で順番は無い。拒否の強い方は時間を変えて何度か誘導をしている。入浴剤も使用し温度も個々に調節し石鹸も液体・固形と使い分けている。	入浴は原則として毎日午後行っている。入浴拒否者には何度も声をかけるか、時には薬を塗るとか、身体検査と言って入浴につなげる工夫をしている。	

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・室温は個々の好みとし寂しい時はソファ・リビングで寝る方もいる。又就寝時間も全員グラフを付けており体調管理・変動に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後に相談記録を職員全員が確認し、処方箋変更時には薬の確認をすると共に、往診時に医師よりレクチャーを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・洗濯干し、たたみ・食器拭き・食材処理・掃除などは入居者に参加して頂き、レクは編み物・百人一首、衣類補修など。外出行事は年間計画により適宜実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日近隣公園まで散歩しておりルートはその日によって変えている。又時間も季節・天候により流動的に対応している。個別対応に関してはご家族の協力により外食・親族間の行事に関して対応している。	天気の良い午前中は、近所の散歩を行っている。散歩時に近隣の住民と挨拶を交わすなど交流がある。行事計画を作成し、季節に合わせて花見や外食を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で、小額であるがご家族了承の上で所持している方もおり精神的安定はなっているが積極的に買い物に行きたい方の申し出は少なく必要であれば職員付き添いにて対応している。		

あゆの里相模

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては、御自分で書かれる方がいらっしゃるが電話に関しては、ご家族に調整事項があった時に時々変わったり必要に応じて事務所の電話を一人で使える援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、掃除をする際に窓を開けて換気をし、夏場は可能な限りエアコンを使用しない様にし、冬場も極力床暖房と加湿器にて対応している。又壁に季節行事の装飾をしている。	居間と食堂などは利用者の状況に合わせて、利用者が過ごし易い生活できるようレイアウトを変えている。利用者が入れ替わったときなどを利用して、席替えをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内でも、ソファ・ダイニングテーブルのレイアウトにより独りに成れたり仲の良い方と談笑したりと自然に関係が出来上がっている又ユニット出入口に椅子を幾つか設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込める家具に対しては特に制限は無く、個人差はあるが自宅にて使用していた物を利用して頂いている。特に仏壇・写真等はご本人の認識を高めている。	居室は畳敷きになっている。利用者が床に布団を敷いて休めるように配慮している。1階の庭に面した部屋の利用者はプランターで野菜を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クッションフロアの採用により転倒リスクを軽減し、トイレも必要十分の身障トイレを設備している。又生活共有品を少なくする事により認識力を高める様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあゆの里相模

作成日 平成22年4月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震・火災等の備品については飲料水のみなので、食料・防寒具の購入を検討していく	防災備品の充実	予算を組み合わせながら、今年度中に購入し、少しずつ充実していく	半年程度
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。